ロシア連邦の学校教育と初等学校の英語教育の現状
―「読むこと」「書くこと」の指導を中心に

高橋 美由紀

１．グローバル化に対応した英語教育改革

文部科学省（2014）の「グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言」により、小学校では、中学年から外国語活動が開始され（週 1 回程度）、高学年では英語教育が週 2 回程度導入される。そして、新しい学習指導要領では、小・中・高を通して各学校段階の学びを円滑に接続させることや、「英語を使って何ができるようになるか」という観点から一貫した教育目標（4 技能に係る具体的な指標の形式の目標を含む）を示すことが提示された。

高学年では、「身近なことについて基本的な表現によって「聞く」「話す」ことなどに加え、「読む」「書く」の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養うことや学習の系統性を持たせるため教科として行うことが求められている。

これまで文字指導については、「児童に過度な負担を強いることなく指導する必要があり、読むこと及び書くことについては、音声面を中心とした指導を補助する程度の扱いとするよう配慮し、聞くこと及び話すこととの関連性を持たせた指導をする必要がある」と学習指導要領では言及されているが（文部科学省 2008a：19）、英語教育の教科化を進めるにあたり、高学年を対象にした補助教材『Hi, friends! プラス』が文部科学省で作成された（2015）。そして、2015 年度から一部の小学校では試行的にその教材を使用して文字学習が行なわれている。

本稿では、日本と同様に英語は外国語[1]であり、コミュニケーション能力の育成を目標として、4 技能の指導を小学校 2 年生から導入しているロシア連

[1] ロシア連邦では英語は第一外国語の一教科。（英・独・仏・西の４ヶ国語から選択）

邦の事例を基にして、児童に適した「読むこと」「書くこと」の指導を考察する。なお、調査地として、首都モスクワではなく地方都市を選んだ。

２．ロシア連邦の学校教育と英語教育

2.1. ロシア連邦の学校教育

ロシア連邦は多民族国家であるが､学校の教育用語はロシア語のみである。授業料は国立学校の場合は無料とされている。9 月 1 日から始まり、2 学期制であるが、それをさらに 2 つに分け 4 半学期制とし、秋（9 月~10 月）・冬（11 月~12 月）・春 （1 月～3 月）・夏 （3 月～5 月） の間にそれぞれ休暇がある。

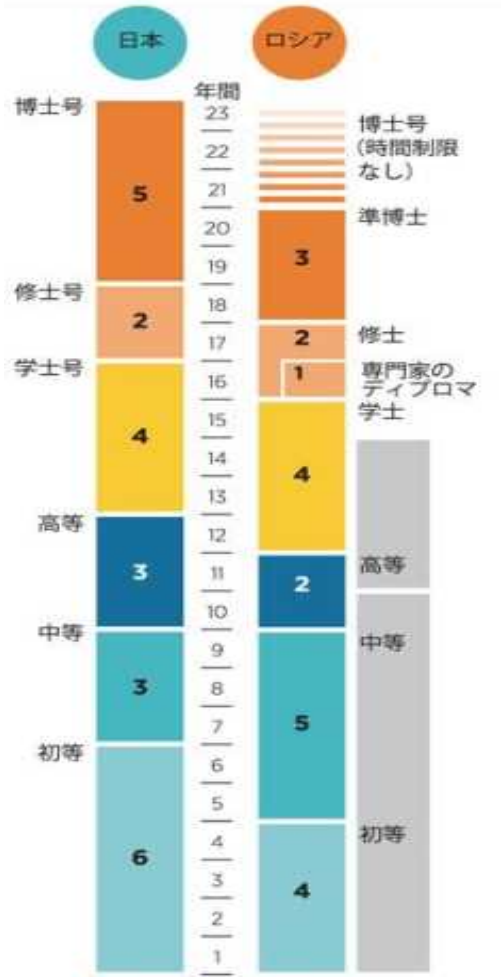
初等・中等教育（日本の小学校から高校段階まで）をほぼ一貫教育で行うケースが多い。そのため同じ敷地内に、初等・中等教育機関として、初等学校・基礎学校・高等学校が設置されている。これらの 3 つの学校を一つの教育機関として「Школа No.4（No.4 学校＝シュコーラ No.4）」などと番号で呼ばれている。普通学校の多くは共学で、1 クラス 25～35 人程の生徒数である。

ロシア連邦の学校の特徴としては、普通学校以外に英語や物理・数学・音楽など特定の科目またはスポーツ分野の教育に力を入れた特別学校や特別クラスが設けられていることである。例えば、英語特別学校では、普通学校で 2 年生から始まる英語の授業が 1 年生から導入されている。さらに、英語の授業時間数が普通学校よりも多いカリキュラムとなっている。

就業年数は、初等・中等教育においては、初等学校 4(3)[2]年間・基礎学校 5 年間・高等学校 2 年間であり、義務教育は 6 歳の 9 月から開始され、日本の小・中学校段階と同様の 9 年間（15 歳）である。なお、開始年齢は保護者の希望により 7 歳から始めることも可能とされている。そして、義務教育終了後は中等教育の後期課程として大学進学を前提とした高等学校に進学するコースと、専門学校に進学するコースとに分かれる。高等学校は 10～11 年生（16～17 歳）の 2 年間があり、その後、高等教育機関として大学が設置されている。なお、大学は学部によって就業年数が異なり 5～6 年間（18～22・

[2] 普通は 4 年間であるが、7 歳から初等教育を始めた児童は 3 年間の場合もある。

23 歳）となっている。



学年が終わる頃（5 月末～6 月頃）6 年生～10 年生までの生徒たちは主要 2・3 科目の試験を受ける。また、義務教育の終了時の 9 年生と中等教育終了時の 11 年生には「統一国家試験」が実施される。9 年生は 4 科目を受けて、一部の生徒は義務教育のみで学校を卒業する。一方、11 年生の試験科目は 14 科目であり、ロシア語と数学が必修とされ、そのほかに外国語、地理、歴史、社会、化学、生物、物理、情報、文学などから 2～3 科目を選択することとなっている。なお、2010 年秋以降から 11 年生の「統一国家試験」は、大学と中等職業教育機関の入学者選抜に使用されている（澤野 2014、小泉 2016）。

（表 1 :「ロシア NOW」（2016）より日・ロシアの教育システムの比較）

2.2. 国家教育スタンダード

1992 年に制定された教育法が 2012 年に廃止され、新たに連邦法「ロシア連邦における教育について」が制定された。また、ロシア連邦教育科学省（以下教育科学省）は、初等・基礎・中等教育の目標や教育の意義、連邦構成要素の説明、連邦構成要素に含まれる各教科の目標や教育内容、育成すべき知識や能力等が示されている「連邦国家教育スタンダード」についても改訂し、2010 年 9 月より「第 2 世代の連邦国家教育スタンダード」として段階的に移行した。この「国家教育スタンダード」は、日本の学習指導要領に相当し、国の教育課程の基準となるものである。

ロシア連邦の最初の初等中等教育における「暫定連邦国家教育スタンダー

ド」は 1993 年に作成された。この「暫定版」では教育内容に民族・地域や各学校の特色が顕著であった。しかし、その後、2004 年に「第 1 世代の連邦国家教育スタンダード」では、ロシア連邦コンポーネントの占める割合が 50～75%以上となり、教育における中央統制が強化された。さらに、2009 年 10 月には「ロシア連邦の国家教育スタンダード」として正式決定され、「第 2 世代の連邦国家教育スタンダード」への移行が進められた。そして、2010 年 9 月から一部の初等学校で導入され、2011 年 9 月から全ての初等学校の 1 年生、2012 年は 2・5 年生、2013 年は 3・6・10 年生、2014 年は 4・7・11 年生、2015 年に 8 年生と順次実施されることになった[3]。

なお、「国家教育スタンダード」は、(1)基本教育プログラムの構成要素、(2)基本教育プログラムの実施要件、(3)基本教育プログラムの習得要件から構成されている（岩﨑 2011：15-20）。そして、この「国家教育スタンダード」に基づいて、ロシア教育アカデミーなどの教育科学省から委託を受けた研究機関では、各教科の教育内容及び到達目標、授業時間の配分を示す基本教科課程を含む「標準基礎教育プログラム」を作成している。このプログラムの外国語では、「最低限の教育内容」などが学年別、技能別に掲げられている。例えば、(1)コミュニケーション能力として、①話すこと（会話と発表）、②読むこと、③聞くこと、④書くことの目標と具体的な内容、(2)言語知識として、①綴り字法、②発音、③語彙、④文法、さらに、(3)言語文化知識、(4)翻訳の能力、(5)学習能力など外国語学習全般において述べられている（Минобрнауки 2014）。

教科書については出版社が「国家教育スタンダード」と「標準基礎教育プログラム」に基づいて作成し、教育科学省が実施する教科書検定を受けて合格したものが教科書リストに掲載される。各学校では教師がこのリストの中から教科書を選定している。

2.3. Школа における英語教育

[3] 「утвержден приказом Минобрнауки России от 6 октября 2009 г. № 373; в ред. приказов от 26 ноября 2010 г. № 1241, от 22 сентября 2011 г. № 2357」とあり、2009 年 10 月 6 日の教育科学省令 No.373 号で施行され、2010 年 11 月 26 日の No.1241 号と 2011 年 9 月 22 日の No.2357 号で改正されている。

Школа での授業は 6 時間（1 時間＝40 分～45 分）である。初等学校は 1 部制であるが、基礎学校と高等学校では学校によっては午前と午後に学年別に 2 部制で行なっている。例えば、Kasan（カザン）の школа No.23 では、1 時間目 8:00-8:45、2 時間目 8:55-9:40、3 時間目 9:55-10:40、4 時間目 10:55-11:40、5 時間目 11:55-12:40、6 時間目 12:50-13:35 と午前中で授業は終了する。一方、2 部制をとっている Volzhsk（ボルシスク）の школа No.4 では、午前の部が 1 時間目 8:00-8:40、2 時間目 8:50-9:30、3 時間目 9:40-10:20、4 時間目 10:40-11:20、5 時間目 11:35-12:15、6 時間目 12:25-13:05、午後の部が、1 時間目 11:35-12:15、2 時間目 12:25-13:05、3 時間目 13:20-14:00、4 時間目 14:10-14:50、5 時間目 15:00-15:40、6 時間目 15:50-16:30 である。

1 年生は 35 分授業であり 5 時間目で終了する。2・3・4 年生は、曜日によって 4 時間目や 5 時間目で終了する。また、15 分休みには学年別にランチタイムがあり、児童や生徒はランチルームで簡単な昼食を取る。

指導者は、初等学校では学級担任と専科担任とで授業を受け持つ。学級担任は、ロシア語、ロシア文学読本（ロシア文学を読むための言語教育）、生活（理科・社会）、算数、図画工作を教えている。音楽、英語、体育は専科担任が指導している。一方、基礎学校からは全教科は専科担任が指導している。

教育科学省によれば、「英語は第一外国語[4]の一科目として、小学校 2 年生から必修で学ぶこと」とされている。ソ連時代には、主に履修される外国語科目はドイツ語であったが、最近では、英語は外国語の中でドイツ語やフラン語よりも第一に学ぶ言語であるとの考え方が一般化している。2010 年の「統一国家試験」では、92%の学生が外国語試験に英語を選んだ（EF EPI 2014）。また、保護者のニーズも高いこともあり、多くの小学校では英語教育を 100%導入している（Sedova 2015）。

外国語（英語）の学習開始年齢は小学校 2 年生（7～8 歳）であるが、学校によっては 1 年生から導入されている。初等学校では週 2 回、年間 34 週回実施している。基礎学校では週 3 回の授業が行われている。また、英語特別学校では週 3～5 回実施しており、例えば Kasan（カザン）の школа No.39 では、2014 年度は週あたり 1 年生 2 回、2 年生 3 回、3 年生 4 回、4 年生 3

[4] 第一外国語は英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語である。

回、5 年生 5 回、6 年生 5 回、7 年生 5 回、8 年生 4 回、9 年生 5 回、10 年生 6 回、11 年生 6 回授業を実施している。クラスサイズは、通常一クラス 25 人程度であるが、語学の時間は 2 つのグループに分けて、1 グループが 12 人～15 人程度となる。教師は 1 グループに 1 名が指導に当たっている。

教科書は、現在以下の 14 種類である。①"Spotlight" ②"Starlight" (углубленно) ③"English" (Кузовлев) ④"English" (Верещагина) ⑤ "Enjoy English" (Биболетова) ⑥ "Millie" ⑦ "Happy English.ru" (Кауфман) ⑧"FORWARD" ⑨"Английский язык. Brilliant" ⑩ "Rainbow English" ⑪ "English" (Тер-Минасова) ⑫ "Английский язык" (Горячева) ⑬"Magic Rainbow" ⑭"English" (Никитенко)

３．初等学校における「読むこと」「書くこと」の指導

3.1. 初等学校における「外国語の基礎教育プログラム」

初等学校の「読むこと」「書くこと」の指導内容について、「標準基礎教育プログラム（外国語）」においては「必須で最低限必要な基礎教育プログラム項目」として、以下の様に挙げられている。

なお、初等学校修了時は日本の小学校 4 年生修了に当たる。児童は 2 年生から英語学習を始めて僅か 3 年間で、最低レベルであっても以下の能力に到達していることが要求される。

「読むこと」について：

（読書の形態に応じて）文章内容により精度と深さの異なる読書の理解が出来ること。

－基本的な内容の理解（入門書の読書）、

－内容の完全な理解（学ぶための読書）、

－必要又は興味を持つ情報の選択的な理解（閲覧／検索読書）であること。読書の形態にかかわらず、辞書が使用できる事。

習得対象言語の国の日常生活や習慣や文化を反映した本物の文章を理解するための読書。

能力の形成：

－テーマやテキストの内容を表題で色分けする事、要点をまとめる事、

－枝葉を省略し、テキストから主要な事実を選択する事、

－テキストの主な事実に論理的な順序をつける事。

様々なジャンルにおいて平易な本物の内容の文章を十分に理解した読書。

能力の形成：

－情報処理された文章の完全かつ正確な理解（馴染みのない単語の解明、文法的分析、スケジューリング）、得た情報の評価、自分の意見の表明、テキストに記述された様々な事実の説明やコメントをする事。

－選択的な必要な又は興味のある情報の読書、文章に目を通し（新聞、雑誌の記事やいくつかの記事）、必要又は学生に関心のある情報を選択する能力。

「書くこと」について：

能力の開発：

－テキストからの抽出、

－学ぼうとしている言語の国の話し言葉の学習で得た言語(音声)習慣を利用して、短い挨拶の記述（誕生日やその他の休祭日）、

－願い事の表現、フォームに記入（名前、姓、性別、年齢、国籍、住所の記入）、

－サンプル通り又は制限なしで個人の手紙を書く事（宛て先の相手の生活や仕事の話題や、同様に自分の事を伝えたり、感謝や要望を伝えたりする）。

3.2. アルファベットの指導

アルファベット文字は「読むこと」「書くこと」の指導の基礎として、2 年生の最初の授業から指導されている。また、アルファベットの文字だけでなく、発音記号も重視した指導を行なっている。新学期が始まったばかりの 9 月初旬、学校教育として初めて英語を学ぶ 2 年生の授業を参観した。

はじめに“Hello!” “How are you?”の挨拶や自分の名前を答えたりする場

面では日本の外国語活動と同様であった。また、楽しい雰囲気を作るために、歌やチャンツ、パペットを用いて、“What’s your name?” “My name is ～.” 等のインタビュー活動等、教師の工夫された授業も日本と同様だと感じた。しかしながら、授業が 15 分を過ぎた頃から文字指導が始まった。はじめに、教師が「ABC ソング」を CD で聴かせた後、絵カードを児童に差し出した。絵カードには、りんごの絵とその下に「A」と「a」が書かれてあり、大文字と小文字を一緒に教えていた。

教師は絵カードにあるアルファベット文字と絵の両方を示しながら文字を読み、児童は教師の後について発話した。次に、教師が示した絵カードの文字を児童だけで読んだ。何度もこの活動を繰り返して、アルファベット文字を読む練習を行なった。さらに、教師は「アルファベット文字の表」を使用して文字を指し示し、児童の発話を促した。この練習も何度も繰り返して行なった後、黒板に「A」「a」の文字を書き、矢印で[ei]の発音記号と name の語彙、[æ]の発音記号と cat の語彙といったように、アルファベット文字と同時に発音記号、語彙を書いた（写真１）。

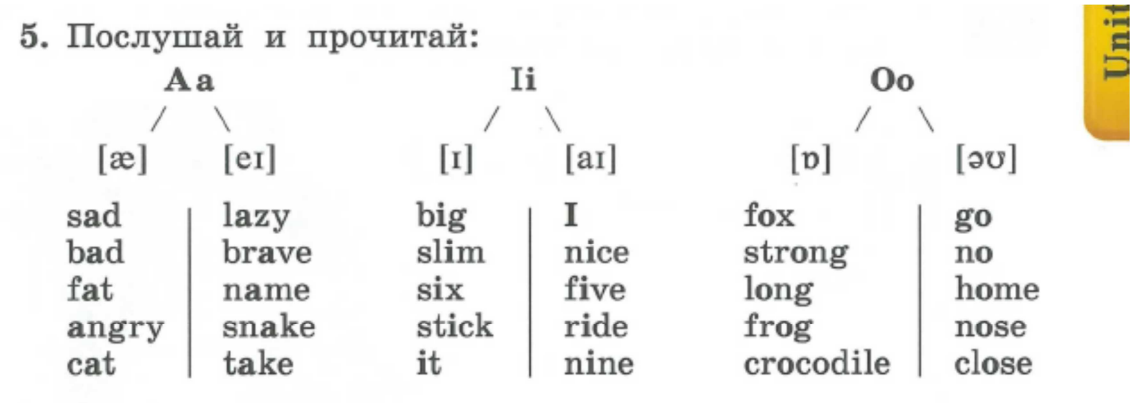
（写真１：2 年生の授業で発音記号を教えている。школа No.4 in Volzhsk：2014 年 9 月 11 日、筆者撮影）

このように、児童に発音記号を徹底して覚えさせるために文字と音声を結びつけた練習を行なっている。掲示してある「アルファベット文字の表」にもアルファベット文字の横に発音記号が併記されていた。また、ワークブックでも、ABC の文字を書く練習と併せて発音記号を書く練習ができるような形式になっていた。

3.3. 文字を読む学習

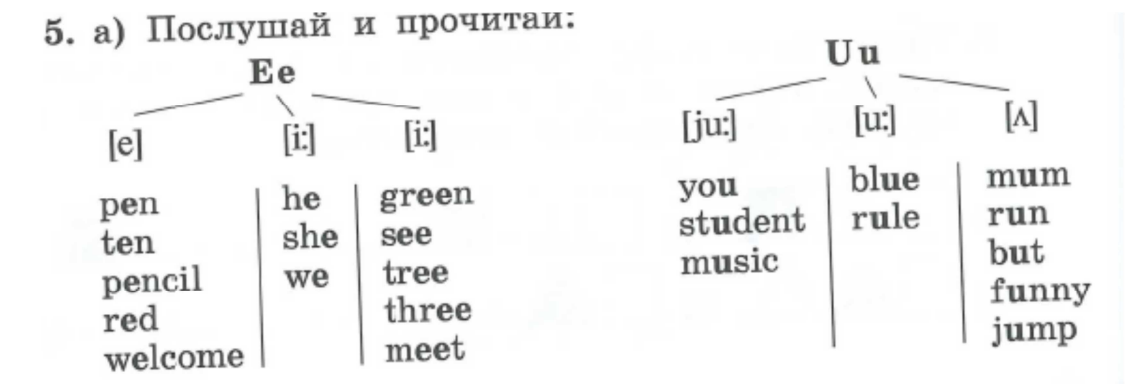
アルファベット文字を読む活動から語彙を読む活動へと繋げて教えている。語彙は絵カードで示されるものだけでなく、テーマ毎に関連づけて教えられている。参観した授業では Animal の語彙で児童にとって身近な動物を挙げ、教師が英語で発話しながら、次にロシア語で児童に意味を尋ねて、「dog－собака, cat－кошка, fox－лиса, elephant－слон, crocodile－крокодил, tiger－тигр」と英語とロシア語を併記して黒板に書いた。その後、教師がそれぞれの語彙を指して、再度英語を発話した。児童が教師の発話を真似して繰り返し、発話がスムーズにできるようになる迄、教師は何度も練習を促していた。

3 年生では教科書にある母音の「A」、「I」、「O」の文字の各々の主要な発音記号とその発音を含む語彙について、教師が発話しその発話を児童が真似て繰り返すという方法で教えていた。児童に発音記号を意識させるために、教師がその部分を強調して発話していた。教科書でもその部分が太字になっているので、児童は視覚（文字を読む）と聴覚（音声を聞いて真似する）の両方で文字を覚えることができる（図 1）。



5. Послушай и прочитай:

Aa		Ii		Oo	
[æ]	[eɪ]	[ɪ]	[aɪ]	[ɒ]	[əʊ]
sad	lazy	big	I	fox	go
bad	brave	slim	nice	strong	no
fat	name	six	five	long	home
angry	snake	stick	ride	frog	nose
cat	take	it	nine	crocodile	close



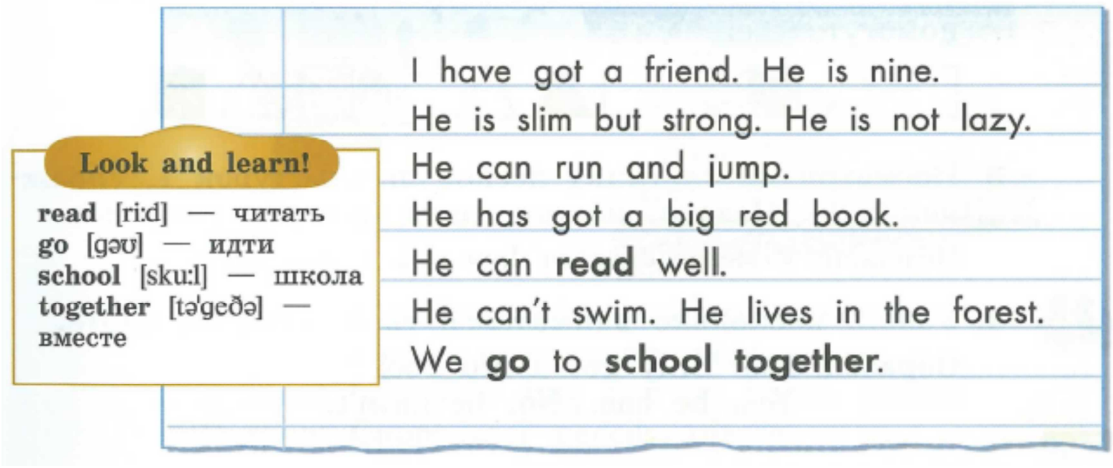
5. a) Послушай и прочитаи:

Ee		
[e]	[i:]	[i:]
pen	he	green
ten	she	see
pencil	we	tree
red		three
welcome		meet

Uu		
[ju:]	[u:]	[ʌ]
you	blue	mum
student	rule	run
music		but
		funny
		jump

（図 1：*Enjoy English 3, pp.5-6,* школа No.2 in Volzhsk：2015 年 9 月 7 日）

次に、教科書の「友達を紹介する」活動を行なうために、形容詞や動詞の復習を行なった。教師は ICT を活用して、それぞれの人物の特徴を示した写真を提示した。児童は写真を見て的確に表している形容詞を予想しながら口頭で答え、教師は正解を文字で示した。児童はその文字を読みながら、自分の答えが正解か間違っていたかを友人と確認し合っていた。その後、教科書にある文を読む活動を行なった。なお、新出語彙については「語彙」と「発音記号」「ロシア語訳」が文と同ページに「Look and learn!」のコーナーとして掲載されている（図 2）。また、「listen, read and act out」のコーナーでは、対話でのロールプレイの発話が書かれてあるので、児童はペアでその対話文を読み、それぞれの役を担当して寸劇を演じる活動も行なった。



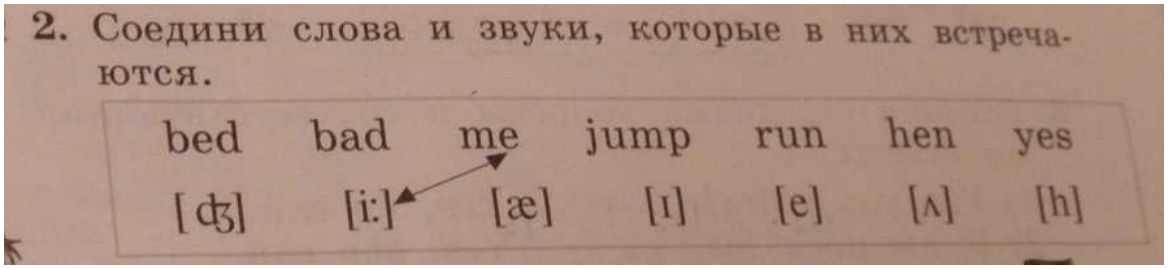
Look and learn!

read [ri:d] — читать
go [gəʊ] — идти
school [sku:l] — школа
together [tə'geðə] — вместе

I have got a friend. He is nine.
He is slim but strong. He is not lazy.
He can run and jump.
He has got a big red book.
He can **read** well.
He can't swim. He lives in the forest.
We **go** to **school together**.

（図 2：*Enjoy English 3, p.5,* школа No.2 in Volzhsk：2015 年 9 月 8 日）

確実に発音記号を習得させる教育は、4 年生でも継続して行なわれていた。文字と発音記号を結びつける学習として、ワークブックにも「語彙」と「発音記号」を矢印で結ぶ問題が掲載されていた。この様な徹底した教育で、初等教育の段階から、「発音記号を理解して読めること」が要求されていることがわかる（図 3)。


2. Соедини слова и звуки, которые в них встречаются.

bed	bad	me	jump	run	hen	yes
[ʤ]	[iː]	[æ]	[ɪ]	[e]	[ʌ]	[h]

（図 3 : *Enjoy English 4,* ワークブック, p.44, школа No.2 in Volzhsk :2015 年 3 月 13 日）

4 年生の教科書では、「読むこと」の学習として、セクション毎に、(1)絵を見ながら読んで理解する活動、(2)短いストーリーを読んで理解し、英語で答える活動などがある。また、教科書の指示文は、3 年生迄の教科書ではロシア語が多いが、4 年生はほとんど英語で書かれている。したがって、児童は教科書にある英語の指示文を読むことで、読みの学習にも繋げることができる。さらにまた、教科書には音声教材として CD が付けられており、教科書には発音記号が併記されている。この様に、文字を英語の音声と結びつけて学習させることや、初めて英語に触れる 2 年生から発音記号を学習させることで、「読むこと」の指導を重視していることが伺える。

3.4. 文字を書く学習

2 年生のアルファベットの文字指導では、教師が書き順に従って黒板にゆっくりと大きな文字を書き、児童がそれを真似てノートに書き写す練習から始まった。「書くこと」の学習は児童にとって退屈な作業であり直ぐに飽きてしまうので、教師は体を使って文字を覚える工夫として、「空中で・手のひらに・友達の背中に、書いた文字を友達同士で当てるゲーム」を行なった。また、教師に指名された児童が、「黒板に途中まで文字を書き、その文字が何か

を予想する」「文字の一部を隠して当てる」など、ゲームの要素を取り入れた活動を行なった。次に、ワークブックを使用して、アルファベット文字を正確に、マス目を意識しながら書く練習を行なった。左側のお手本に従って、一字一字丁寧に、正しい書き順で書いていた（写真 2）。

（写真 2：2 年生の授業でワークブックにアルファベットを書く練習をしている。школа No.2 in Volzhsk：2015 年 9 月 8 日筆者撮影）

日本のペンマンシップでは 4 本線であるのに対し、ロシア連邦ではマス目であることに異文化を感じた。これは英語に限らず、どの教科もマス目のノートを使用している。

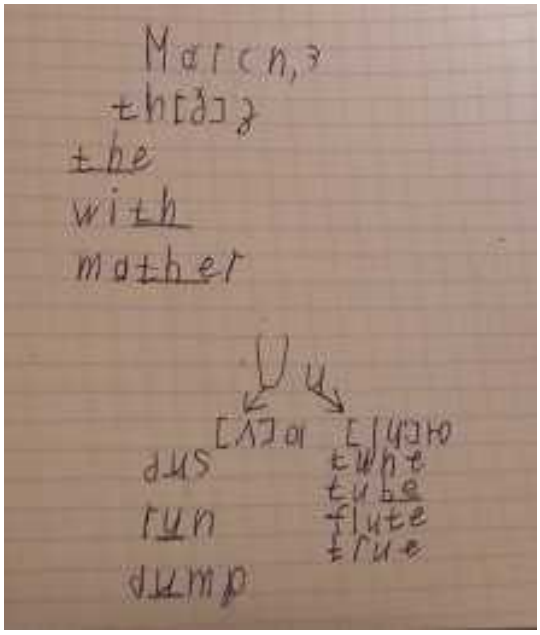
文字を書く活動では個人差が大きく、早く書いてしまった児童はさらにノートに練習していた。一方、時間内に最後の所まで書くことができなかった児童は、この続きは家庭学習とされた。教師は机間巡視しながら、正確に書けていない児童に個別に教えたり、ノートの文字に添削をしたりしていた。少人数クラスなので行き届いた指導ができるが、日本の様に 30 人以上のクラスであれば、きめ細やかな文字指導は難しいと思われる。

なお、書く活動は、ワークブックには、アルファベット文字を書き写す活動から、大文字を見て小文字を書く活動や小文字を見て大文字を書く活動、肯定文「Billy can skate.」を見て否定文「Billy can’t skate.」を書く活動な

ど、文を書き写す活動が大半であった。

ワークブックの「The Best Parrot」では、自己紹介文を自分の絵とともに書く活動であり、I am _____. I am not _____. I can _____. But I can't _____. I like _____. に続けて自由英作ができる活動も掲載されている（*Enjoy English 2* ワークブック, p.54）。

3 年生の授業では、語彙と発音記号を書く練習をノートにしていた。教科書にも発音記号を教えるコーナーが設けられており、例えば「th」の音として、【θ】と【ð】の発音記号の下に、【θ】thank you, think, three 【ð】the, they, that が書かれている（*Enjoy English 3*, p.22）。この教科書に基づいて、教師が他の語彙（with や mother など）に気づかせてノートに書き写しをさせていた（写真 3）。



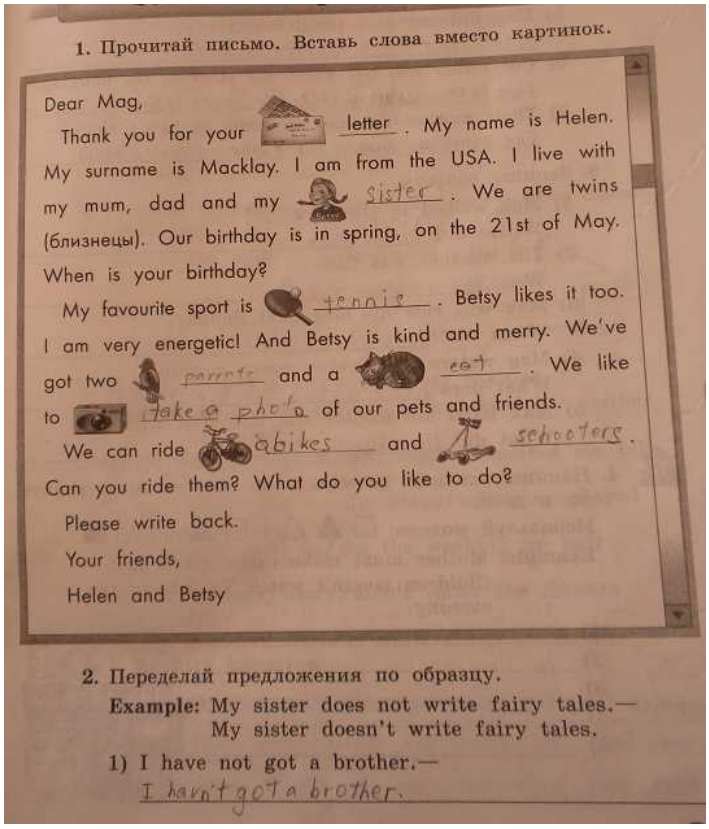
（写真 3：3 年生の授業で児童がノートに書いていた語彙と発音記号 школа No.2 in Volzhsk：2015 年 3 月 12 日筆者撮影）

3 年生の書く活動では、文字を並び替えて文を書く活動や、「バースディーカード Happy Birthday」や「グリーティングカード Happy New Year」を書く活動が教科書に掲載されている（*Enjoy English 3* p.90）。また、2 年生で学習した自己紹介文を発展させた自由英作文の活動も掲載されている。教科書にはペンフレンドに手紙を書くという設定で、以下のフォームに自分のことを自由に書くことができる。

「Dear John, My name is _____. I am from Russia. I am _____. I live

with _____. My birthday is on the _____. I like _____. I can _____. I have got _____. Please write back. Your pen friend, _____」(*Enjoy English 3*, p.123)

4 年生では、「文を読み、書かれた内容を理解して書く」活動を行なっていた。語彙の前に絵を手がかりとして語彙を書き、内容を把握する活動であった。最初は個人で下線に、sister, table tennis, parrot, cat, take a photo, bike などの語彙を入れて手紙文を完成させ、次に、ペアーで文を読みながら内容把握を行なった。最後に、教師が正しい語彙を入れながら、説明していた(図 4)。

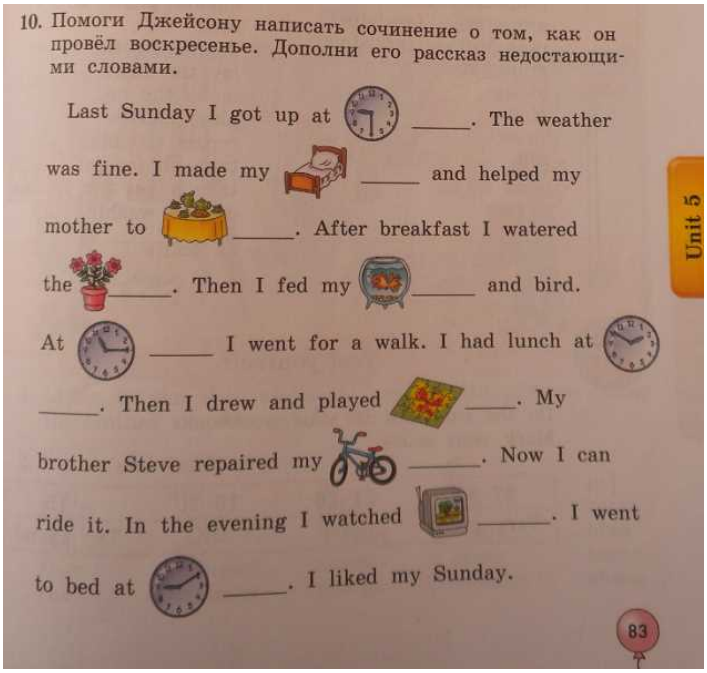

1. Прочитай письмо. Вставь слова вместо картинок.

Dear Mag,
Thank you for your letter. My name is Helen. My surname is Macklay. I am from the USA. I live with my mum, dad and my sister. We are twins (близнецы). Our birthday is in spring, on the 21st of May. When is your birthday?
My favourite sport is tennis. Betsy likes it too. I am very energetic! And Betsy is kind and merry. We've got two parrots and a cat. We like to take a photo of our pets and friends.
We can ride bikes and schooters. Can you ride them? What do you like to do?
Please write back.
Your friends,
Helen and Betsy

2. Переделай предложения по образцу.
Example: My sister does not write fairy tales.—
My sister doesn't write fairy tales.
1) I have not got a brother.—
I hav't got a brother.

(図 4：*Enjoy English 4* ワークブック, p.37, 2015 年 3 月 3 日 школа No.2 in Volzhsk)

また教科書を使用し「日記を読む活動を通して過去形の文を学習する」ことで、書くことの指導も行なった。教科書では文字と絵で日記が著されており、児童はスラスラと楽しく読んで、絵を手がかりに文字を入れて内容を理解していた（図 5)。



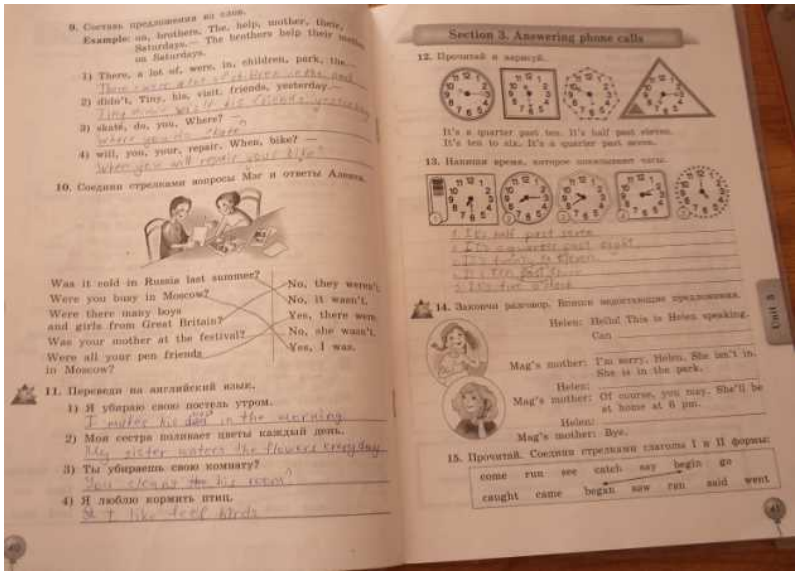
10. Помоги Джейсону написать сочинение о том, как он провёл воскресенье. Дополни его рассказ недостающими словами.

Last Sunday I got up at _____. The weather was fine. I made my _____ and helped my mother to _____. After breakfast I watered the _____. Then I fed my _____ and bird. At _____ I went for a walk. I had lunch at _____. Then I drew and played _____. My brother Steve repaired my _____. Now I can ride it. In the evening I watched _____. I went to bed at _____. I liked my Sunday.

Unit 5

83

（図 5：教科書 *Enjoy English 4*, p.83, школа No.2 in Volzhsk: 2015 年 3 月 13 日）



Section 3. Answering phone calls

Was it cold in Russia last summer? — No, they weren't.
Were you busy in Moscow? — No, it wasn't.
Were there many boys and girls from Great Britain? — Yes, there were.
Was your mother at the festival? — No, she wasn't.
Were all your pen friends in Moscow? — Yes, I was.

11. Переведи на английский язык.
1) Я убираю свою постель утром.
2) Моя сестра поливает цветы каждый день.
3) Ты убираешь свою комнату?
4) Я люблю кормить птиц.

Unit 5

（図 6：*Enjoy English 4*, ワークブック, pp.40-41, 2015 年 3 月 3 日 школа No.2 in Volzhsk）

最後に、ワークブックでこの内容についての質問に英文で書いて答える活動を行なった（図 6）。

ワークブックにはドリル的に書いて覚える練習や、文字を並べ替えて正しい英文にする問題などもある。さらに、文字を書くことの練習を通して、文法や内容理解の学習もできる内容となっている。

また、3 年生で学習したバースディーカードを書く活動を発展させ、「Dear Jill, You are ten today. Happy Birthday!　Love, Mum and Dad」「Dear Jill,

This day I wish you much pleasure and a lot of fun!　Your uncle Tom.」などの文を参考にして、オリジナルカードを作成する活動が掲載されている（*Enjoy English 4*, ワークブックｐ.27）。

４．日本の小学校英語教育への示唆

日本の外国語活動の文字指導の利点としては、①記憶の保持、②音声による聴覚情報に、文字による視覚情報が加わることで、内容理解が進み、外国語に対する興味を促す、③児童の知的欲求に合致することが挙げられている。また、「読むことの動機付けが必要である。児童にとって、意味があり面白いと思うものを与える（文部科学省 2008b：53-54）」ことも言及されている。さらに、子どもの認知発達について、小学校高学年では、「物事をある程度対象化して認識することができるようになる。対象との間に距離をおいた分析ができるようになり、知的な活動においてもより分化した追求が可能となる。」と述べられている（文部科学省 2016）。

現在、アルファベットの文字学習を日本では高学年で、ロシア連邦では 2 年生で学習する内容となっている。アルファベットの文字学習は、単に覚える活動であり高学年に適した知的な活動とは言い難い。一方、ロシア連邦の 2 年生にアルファベットの文字学習を行なうのは児童の負担となっているのか[5]を観察していたが、これは教師の導入の仕方次第であると思われた。①児童が「文字学習は授業で毎時間行なうのが当たり前だ」と思えるような意識を教師が植えつけて、3 文字程度を導入する。②決して無理に多くを学ばせない。③ワークブックなどで家庭学習を与えて、学校の文字学習を補うことをする。④次の授業の最初の 3 分程度で、前時の復習をしながら少しづつ新しい文字を導入していく。このような進め方により、児童の文字に対する抵抗感や負担感はほとんどないと思われる。

一方、文字と一緒に発音記号を読んだり書いたりする活動については、初めて英語の文字に触れたばかりの児童にとって、アルファベット文字と発音

5 ロシア語（33 文字）と英語（26 文字）のアルファベット文字は形状も異なる文字もある。また、同じ文字「C」（ロシア文字の C は英語の S）「P」（ロシア文字の P は英語の R）などの様に音声が異なる文字もある。

記号を同時に学ぶことは児童の負担になると思われた。しかしながら、教師は、「発音記号と文字を関連づけて覚えられるので、暗記に抵抗感が少ない年齢の児童に覚えさせることが大切だ。発音記号を知らないと読めるようにはならない。」と言い、ドリル的な学習を通して教え込んでいた（Sedova 2015）。ALT がいないロシア連邦では、読むことの指導に対して、音声は CD 等の教材と指導者が発話するのを聞いて学ぶ。したがって、児童が発音記号を覚えることは、読むことの学習を促進することに繋がる。

初等教育の文字指導では、文字のみならず、絵カードや教科書の絵などを使用する。2 年生では文字に色を塗る活動もあり、聴く活動から読む活動に繋げていく内容が多かった。したがって、「音声による聴覚情報に、文字による視覚情報が加わる」ため児童にとって負担度は少ないと思われた。また、音声活動だけのコミュニケーションよりもメモを見ながらの活動の方が、文字による記憶の保持にも繋がり、先回の学習を覚えている児童も多いと思われる。さらに、「手紙を読む・書く活動」「カードを作成する活動」「絵を活用して推測しながらストーリーを組み立てる活動」など、児童の英語学習のモチベーションに繋がる活動も多く見られた。

日本の小学校に示唆できる点としては、以下の指導が挙げられる。

(1)アルファベット文字の「読み・書き」指導は、低学年から「遊び」の中で導入する。

(2)授業では、音声と伴に文字を示し、児童が文字に抵抗感を抱かない様にしておく。

(3)教科書教材の絵を活用して、「絵と語彙を一致させる活動」「文を読んで語彙を並べる活動」「文を読んでその内容についての質問に答える活動」など、児童の発達段階に併せて「読む活動」をアクティブにする。

(4) 4 技能を総合的に扱うために、「聴くことから読むことへの活動」「読むことから書くことへの活動」「読むことから話すことへの活動」に繋げる。

(5)教科書のフォーマットを活用して、オリジナルのカードや手紙などを作成する活動を行なう。

(6)個人差が広がった場合には、早くできる児童には発展的な活動を増やし、

遅い児童には家庭学習で補えるような練習も行なう。

(7)クラスサイズを 10~15 人程度にして、きめ細やかな指導が行えるようにする。

５．おわりに

ロシア連邦では、街中の地下鉄の駅名や案内板には英語表記が見られないところが多い。多民族国家のロシア連邦では、地方によってはロシア語と現地語と英語の 3 言語の表記もある。日本では英語表記のあるマクドナルドなどの店の看板でもロシア語表記のみである。

ロシア連邦と日本の両国とも英語は外国語教育として学んでいる。ロシア連邦の人々にとって、英語は 1991 年の「ソ連崩壊」まで、親しみの持てない言語であった。現在でもロシア連邦の田舎町で英語を話すことができる人は、英語の教師などごく限られた人達である。

一方、日本でも同様の状況があり、小学校に英語を導入することに対しては、「母語教育の充実が第一。英語を知らなくても生活に不自由しない。」との理由から反対の声も聞かれた。しかし、「グローバル化」によって、両国とも英語を学ぶ必要があることが認識され、「英語教育」に対する見方や指導方法などにも徐々に変化が見られるようになってきた。

ロシア連邦では、英語に対する意識は高く、これまで高学年から始めていた外国語教育は、2012 年度に 2 年生から開始されることになった。なお、都市部や英語特別学校等では 1 年生から開始されている。また、英語は第一外国語の一教科であり、他の外国語の選択肢もあるが、現在では多くの学校が英語を選択している。そして、初等教育の段階から、コミュニケーション能力の育成のために 4 技能や文法、語彙、言語文化、学習方略などを追求した指導内容となっている。とりわけ、初等学校の文字指導については教科書やワークブックを効果的に活用し、教師の工夫も多々見られた授業であった。

日本では、外国語活動において、「読むこと」の指導では「児童が最初から自発的に読むことは期待できない。しかし、教師が適切な教材を選び、読み聞かせることで、読むことに興味を持ち始めると考えられる」（文部科学省 2008b:54）と述べられている。

移行期間である 2018 年度には小学校英語教育の教科書が発行される予定である。今後の課題として、アルファベット文字から「読むこと」「書くこと」の指導において、中学生の前倒しの教材ではなく小学生の学習として適切な教科書やワークブックなどの教材開発は当然であるあるが、グローバルな視点から児童が英語に興味・関心を持つものや、「読むこと」「書くこと」の効果的な指導のあり方について、教科書のみならず、絵本や母語教育で使用されているテキスト、及び、オーセンティックな教材等の活用法を中心に追求していくことが大切である。

謝　辞

本稿を執筆するにあたり、Larisa Usmanova 氏（当時カザン大学）及び、Laysan Gibadullina 氏（当時カザン大学）のお陰で、現場の先生や英語教育の生の情報を得ることができました。また、Elena Sedova 氏をはじめ、多くの授業を参観及び面談をさせて頂いたカザンとボルシスク市内の Школа（初等学校・基礎学校）の先生方からも貴重な情報を得ることができました。最後に、お忙しい中、ロシア語の翻訳を引き受けて下さった、伊藤正直氏（東北大学）にもここにお礼申し上げます。ありがとうございました。

本稿は、「『読むこと』『書くこと』を統合的に指導する小学校英語教育のプログラム開発」H26～28 年度科学研究費助成金基盤研究(C)課題番号 26370725 の成果発表の一部である。

参考文献

Биболетова М.З., Денисенко О.А., Трубанева Н.Н. (2013) Английский язык. Enjoy English. Английский с удовольствием. 2 класс. Учебник. ФГОС

Биболетова М.З., Денисенко О.А., Трубанева Н.Н. (2014) Enjoy English.

Английский с удовольствием. 2 класс. Рабочая тетрадь. ФГОС

Биболетова М.З., Денисенко О.А., Трубанева Н.Н. (2014). Английский язык. Enjoy English. Английский с удовольствием. 3 класс. Учебник. ФГОС

Биболетова М.З., Денисенко О.А., Трубанева Н.Н. (2014) Enjoy English. Английский с удовольствием. 3 класс. Рабочая тетрадь. ФГОС.

Биболетова М.З., Денисенко О.А., Трубанева Н.Н.(2014) Enjoy English. Учебник. 4 класс. ФГОС

Биболетова М.З., Денисенко О.А., Трубанева Н.Н.(2014) Enjoy English. Рабочая тетрадь. 4 класс. В 2-х частях. ФГОС

EF EPI（2014）英語能力指数 「ロシアの概要 学校教育としての英語」 http://www.efjan.co.jp/epi/archive/v2/euroe/russia/

外務省（2016）「諸外国・地域の学校情報」 http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC55200.html

岩崎正吾（2011）『変わるロシアの教育』ユーラシア・ブックレット No.162 東京：東洋書店.

小泉 悠（2016）「【ロシア】 高等教育制度改革」 http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3487661_po_02510107.pdf?contentNo=1

文部科学省（2008a）『小学校学習指導要領解説外国語活動編』東京：東洋館出版社.

文部科学省（2008b）『小学校外国語活動研修ガイドブック』東京：旺文社.

文部科学省（2014）「平成 26 年 9 月 26 日英語教育の在り方に関する有識者会議（第 9 回）配付資料」

文部科学（2015）「小学校の新たな外国語教育における補助教材の作成について」 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1355637.htm

文部科学省（2016）「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/shiryo/attach/1282789.htm

Минобрнауки.（2014）“Федеральный государственный образовательный стандарт начального общего образования(1-4 кл.)” ФЕДЕРАЛЬНЫЙ КОМПОНЕНТ ГОСУДАРСТВЕННОГО СТАНДАРТА

ОБЩЕГО ОБРАЗОВАНИЯ' pp.102-110.
http://минобрнауки.рф/документы/922
ロシア NOW（2016）http://jp.rbth.com/articles/2012/07/11/38013.
澤野由紀子（2014）「世界の「国語」教育事情 第 7 回 ロシア」大修館国語情報室.
http://www.taishukan.co.jp/kokugo/webkoku/relay001_07.html
Sedova Elena（2015）2015 年 3 月 3 日 школа No.2 in Volzhsk にて面談.
高橋美由紀・柳善和（編著）（2015）『小学校英語教育－授業づくりのポイント』東京・ジアース教育新社.
高橋美由紀（編集協力）（2016）『英語絵じてん』東京：くもん出版.